

# 平成26年度 町政・町教育行政執行方針

平成26年第1回町議会定例会が3月4日から14日まで開催されました。この定例会で関町長が、平成26年度町政執行の基本方針を述べ、横田教育長が平成26年度の教育に関する主要な方針を述べました。また、町政執行方針に基づいた予算案を提出し、慎重審議の結果原案どおり可決されました。新年度のスタートにあたり、その概要をお知らせします。

## はじめに

国の平成26年度予算は、デフレ脱却・経済再生と財政健全化の両立の実現を目指し、聖域なく予算を抜本的に見直した上で、経済成長に資する施策に重点化を図るとしており、平成25年度補正予算と一体として、国際競争力の強化につながる投資や、生活基盤の安定を守る施策を重点的に行うとしています。

こうした中、平成26年度予算の編成にあたっては、「小平町新総合計画」を基本とし、中・長期的な視点に立った新たな財政規律の構築と行政の簡素・効率化を推進し、今後の社会情勢や経済情勢の変化に柔軟に対応できる体制づくりを図りつつ、地域の活性化と暮らしを守る安心・安全の推進につながる予算編成に努めました。

平成26年度の各会計予算額は、一般会計では国の平成25年度補正予算と連動し、当初、平成26年度実施事業として予定していた一部事業、7億3千800万円余りを前倒し、25年度繰越明許費事業として実施することとしたため、前年度比3.1%減の37億5千300万円となつていきます。

また、5つの特別会計予算額は、前年比11.2%減の14億6千810万5千円、水道事業会計は、前年比1.7%増の1億6千776万7千円で、各会計を合わせた予算額は、前年度より1.1%減の37億5千300万円となつていきます。

⑤肉用牛振興事業に対する支援の継続

⑥第一地区・折真布地区の基盤整備事業の継続

⑦「多面的機能支払交付金」事業の実施

⑧「ゆうゆうそう」、「堆肥製造センター」の効率的な管理運営

⑨町有林造林事業等の計画的な施業実施

⑩林道・作業路網整備の継続実施

⑪民有林造林事業に対する支援の継続

⑫漁港施設整備の推進及び漁業経営近代化に対する支援の継続

⑬商工業の振興に対する各種補助制度の継続

⑭「ゆつたりかん」、「鬼鹿ツインビーチ」及び「食材供給施設」の指定管理委託の継続

⑮「望洋台キャンプ場」、「鬼鹿パークゴルフ場」の効率的な施設運営

主な施策内容	予算額
中山間地域等直接支払交付金	56,806千円
(仮称)観光交流センター等整備事業	50,898千円
食材供給センター整備事業	30,408千円
町有林整備事業	22,498千円
森林管理道三軒屋線林道開設事業	15,000千円
小平町商工業振興事業補助金	11,874千円
漁業近代化資金利子補給事業	8,126千円
道営農村災害対策整備事業(第1地区)	5,536千円

算総額は、53億8千887万2千円となり、前年当初と比べて2.5%の減となっております。

次に、各施策の概要についてお知らせします。

## 平成26年度主要施策

### 産業振興施策

◆国においては、我が国農政の柱である米政策を見直すこととして、生産調整を5年後の平成29年度を目途に廃止し、それに伴い経営所得安定対策の見直しや日本型直接支払制度の創設等、農業政策を大きく転換しようとしています。

さらに、農業に対し大きな影響を及ぼすことが懸念されている「TPP」についても、依然、交渉経過は不透明であり、町としては国の動向を注視し、関係機関・団体等と連携を図り、農業者が意欲と将来展望を持って経営展開できるような地域の特色を活かした取り組みを支援し、地域農業の持続的発展に努めます。

◆小平町の基幹産業である農業を核とした活性化方策を模索する「マイ田ウン・プロジェクト」は、昨年度より本格的に始動し、全戸配布しました概要版では、「この先100年を考えれば、」とし、その方策として「引き継いでいく

### 生活環境施策

◆昨年4月より、留萌南部衛生組合による新たなごみ処理が開始され1年が経過しようとしています。開始当初は混乱していた分別についても徐々に慣れてきており、現在では「プラ製容器や紙製容器等の資源ごみ」においても不適物の混入が非常に少なくなっており、今後も町民の皆様にはさらなるご協力をお願いするものであります。

なお、昨年1月に起きた被覆施設の倒壊によって完成が遅れていました一般廃棄物最終処分場の建設工事が完了し、4月から供用開始の予定となっております。それに伴い平成12年度から14年間使用してきました富岡の一般廃棄物最終処分場は、平成25年度をもって閉鎖となります。

◆町営墓地の整備については、白谷墓地在が狭隘かつ傾斜地で高齢者等が墓参の際に不便をしいられているため、地域住民からの強い要望もあり昨年隣接地を購入し、本年度より新たな墓地の造成工事を実施します。

◆町道の整備は、平成25年度補正予算による「社会資本整備総合交付金」橋梁長寿命化修繕工事として、町道住吉中央線の「中央橋」の維持補修工事を実施します。

◆河川・道路の整備として「白谷の沢川」、「大榎子川」等の護岸工事や、道

仕組み」、「助け合う仕組み」を提言しました。この提言実行のため、本年度は具体的に何をなすべきかを皆で考え戦略を決定していきます。農業経営者の高齢化、後継者不足等が危惧され、さらには減反政策をはじめ国の農業施策が見直される中、小平町として独自の農業基盤確立が必要です。

また、農業者の皆様に対して農業生産法人の設立に向けた各種支援施策を行い、さらに地域素材を活かした「6次産業化」に向けた方策を検討するとともに、「ゆつたりかん周辺整備及び旧花田家番屋周辺整備」と連動した事業展開を構築し、産業の振興並びに地域活性化を図ります。

◆小平産肉牛は産業まつりにおいても大きな目玉であり、町の畜産振興の観点からも肥育事業の継続は必要であることから、「川上肥育センター」を新年度から肉牛肥育施設として、地元農業生産法人に対し無償で貸し付けすることとし、財産の有効活用を図ります。

また、鬼鹿牧場の管理運営については、引き続き指定管理者委託により「JA南るもい」が行うことで、効率的な施設運営と効果的な畜産振興を図ります。

◆観光開発計画である「ゆつたりかん周辺」と「旧花田家番屋周辺」の再開発事業は、昨年度ゆつたりかん周辺の道路・駐車場の整備を行い、本年度は平成25年度国の補正予算により、観光

路損傷の激しい町道等の舗装補修工事等を実施します。

◆住宅環境の整備は、平成25年度補正予算の「社会資本整備総合交付金(住宅)」による新興団地屋根葺替工事や新町団地風除室設置工事の継続実施、老朽化した町営住宅の改修等を進め、入居者の居住環境の改善に努めます。

◆空き家対策は、町内の景観及び町民の安心安全確保を図るため、「空き家等解体撤去事業補助金要綱」を制定し、空き家等の解体及び撤去に係る経費の一部を補助することにより、取り壊しが促進されることを望んでいます。

◆公共交通体系は、「地域公共交通会議」を設置し、これまで協議を重ね、地区懇談会での意見も踏まえ、その方向性が決定しました。このため現行の「達布・留萌間の生活交通路線」の運行に替え、達布地域から小平地域間については、地域内ライダーとして「地域デマンドバス」を運行し、小平市街において留萌・羽幌方面を連絡する広域幹線交通に接続する本運行を10月1日から開始するため、4月からはスクールバス要素の試験運行を開始します。

加えて、デマンドバス区域と重複するスクールバスはデマンドバスに統合することとし、試行中である「ぬくもり号」は廃止し、デマンドバスの区域以外で公共交通が不便な地区においては、「タクシー助成」により移動の足を